



— NOTE BOOK —

日記

1954年1月起

昭和~~44~~
29年

CHAPTER

CONTENTS

PAGE

CHAPTER

CONTENTS

PAGE

journal

1954 年

昭和 29 年

① 神武

伊波礼毘古命

[上卷] 是天津日高日子波限建鵜草葺不合命。娶其姨玉依姬命。生御子。名五瀬命。次稻飯命。次御毛沼命。次若御毛沼命。名名豐御毛沼命。并名神倭伊波礼毘古命。...

② 勅語の事

○ 日向ノ山迄。聖國ノ守。筑紫ノ國田ノ宮。阿岐ノ國ノ多祁理ノ宮。經テ。吉備ノ高島ノ宮ニ至ル事。

○ 連吸門ニ經過シ給ハル事。

鹿連ノ渡ニ經テ。青雲ノ白角ノ津ニ泊リ給ハル。那智須良比古ト號シ。ニ旋シ給ハル事。

瀬ノ命。薨ニ給ハル事。

孫ニヒビ熊ニ遣ハシ給ハル。宮下。飯ヲ奉ル事。

八咫鳥ノ導ニ依リテ吉野ノ山ノ宮ニ到リ給ハル。磐坂ノ子。井氷鹿。石井ノ子ニ遣ハシ給ハル事。

○ 宇陀ニ去リ。足宇也其ノ子ニ伴ヒ給ハル事。

○ 八十連ノ君。大室ニ伴ヒ給ハル事。

○ 聖美比古ト號シ給ハル。として作製ノ事。

○ 足部木。弟部木ヲ誅シ給ハル事。

○ 團藝連ノ命。帰吸ノ事。

○ 前大ノ白禰王ノ宮ニ至ル事。

○ 后妃。及ビ皇子ノ事。

紀
13

神武天皇

[卷二] 秀波瀲武鸕鷀草葺不合尊。以姨妹玉依姬命。生彦王命。

次 稻飯命。次 三毛入野命。次 神武天皇

一書曰。失失彦王命。次 稻飯命。次 三毛入野命。次 武甕槌尊。本張神xxxxxx。

一書曰。先生彦王。次 三毛入野命。次 稻飯命。次 神武天皇。本張神xxxxxx。

彦火火瓊瓊杵尊

一書曰。先生彦王。次 稻飯命。次 神武天皇。次 三毛入野命。

一書曰。先生彦王。次 神武天皇。次 稻飯命。次 三毛入野命。

③

p.303

○ 勅語の事 [及年四十二歳。諸説及子守曰]

ト愛ハル。生手研耳命

○ 日向ノ山迄。連吸ノ内ニ經過シ給ハル事 [名ノ下ニ初事西]

○ 筑紫ノ國ノ菟狹。同ノ内。安芸ノ國ノ埴ノ宮ニ經テ。吉備ノ國ノ宮

○ 連吸ノ國ニ經テ。青雲ノ白角ノ津ニ泊リ給ハル。磐坂ノ子。井氷鹿。石井ノ子ニ遣ハシ給ハル事 [及年]

○ 五瀬ノ命。薨ニ給ハル事

○ 名莫ノ時ニ伴ヒ給ハル。熊野ノ海ニ暴風ニ遭ヒ給ハル事

○ 熊野ニ至リ。神ニ遣ハシ給ハル。宮下。飯ヲ奉ル事。

○ 八咫鳥ノ導ニ依リテ。菟狹ニ到リ給ハル事

○ 菟狹ノ内。足部木ヲ誅シ給ハル事

○ 吉野ノ山。井氷。磐坂ノ子。菟狹ノ子ニ遣ハシ給ハル事

○ 菟狹ノ宮。磐坂ノ子。菟狹ノ子ニ遣ハシ給ハル事

○ 香山ノ土ヲ採リテ。器器ヲ作シ。神祇ヲ祭リ給ハル事

○ 八十連ノ君。大室ニ伴ヒ給ハル事。神風。伊勢ノ海ノ御製ノ事。

○ 餘黨ノ君。大室ニ伴ヒ給ハル事。

1月1日 9.00起き、10.30より客生2 group in Byak 2年生に来し。唐蘇2世、年次258
通受取(内102通は在学生)に於て其中、佐瀬良章来る。西田長壽編「都市下層社会」
呈す。午後守屋美穂氏、韓国人李氏より来り、池田良生の「子」冊より示れりして、祖国社
へ紹介状かく。半田祐子より海苔賜ふ。弓子 circusへ細川文君より来りて中し。
止有痘所にて挨拶に来ず(5へ2.0まで青年会に於て酒つたらし)。

2日 雪が13枚。積雪が40cmほど。雪が50cmほど。大雨、雪が10cmほど。雪が10cmほど。雪が10cmほど。

3日 賀状35枚。新潮社の増刊全集のていど80枚ほどの3枚で。斎藤の著書より教務上の用
合也。午後中野ト子来り19.00までゐる。賀状の返事70枚かく。牛野清兄、22日土曜着と。

4日 雨。安女11枚。高師教子合格とめでたし。史、担任先生の家に遊びに行く。父の電話、建好
昨日より来たり行くの帰ると、八木さん嬢来るかと聞かれます。李白「書き出せば名がかりす」
号、如、

5月 雲、望状36枚。竹田龍男宛に、百清璋子に家庭事情。西へ江に、府教委検定通しと。13の
八木に子嬢来る。望状を9他30枚かを授画して給ふ。夜史をOK。何か特徴を去せと云ふに江籍入。
大江叔母の百清生気なの手紙が翌明日、係託子をゆかすことす。

6月 晴。佐野子、京をつれて去江へ行く。16枚変装。中川村村清二先生のあり。うす出て主審の
山下幸祐氏へ行く。米沢藩邸子H来るてハバキ世にしか云電話して断る。山王へた在客の22日

来るとしせあり
 しと。夏満へか
 て、^上帰れ^上帰
 2来^上来る。大
 江叔母百済の
 2と承知とい
 ひしと。序子3日

堀辰雄全集

全六卷



堀辰雄

1頁として来る。

11月7日 土曜 佐々木氏の息の出かゝんとすところへ、佐々木孝彦氏来訪、書初めにて苹果の絵を
はす。賀状9枚。西保嬢の出版を文芸上援助した。午後、文芸1年の来沢昭子、上田阿
津子（ともし金枝嬢）来つ。漢文の点取り、学校面白くお話しあり。上田嬢はちやめ池住あり。夜
書を返し〜い、堀江に四季⁷(200×7)やつて書を送り。

8日 子5匹の卵始葉。堀とて田舎に送る。賀状6枚。史へ坪井への⁷骨⁷托し、芳野清、林、勇士馬へ送る。

9日 栗田運治へ^会⁷, 2。10.の2つ一すむ也。12.の去がけん長尾襷子の賀松、十高板二印より明日
小野十三郎の会に来段と。^{蒲池}歌一々アヲ和田様ニモル、^信号ハヒト。^{合社へ寄}詩書整頓君ノ^信エ受
付ハ。大木ハク金高屋ニ寄リ、encyclopaedia¹モヤハ'14月27来セ。大木ハヤ云野堂ニ^信
カヒ出ハ地方版ツケン紹介出シ。文章巧シトはカレ受テ。朝日吉井君ハ冬郵。15.45不二原中ス。吉川。
栗中馬、伊藤、銀谷^(姉離婚止!)等。後藤田、斎藤、酒井、椿下、寺本、野嶋、足田、平山、藤崎
^{姉妹}堀、本多、松井、宮沢、山口、山莊、山中、山尾、吉原、藤田、和島、森田と28人に吾仲。西宮ニ先芝と盛合取
リ。出て斎藤、堀と惣集。天牛南窓ニ錦本信太郎¹シオードレーン(120)「古典全書増鏡」精吟
日記(5076)⁷買ニ21.30帰宅。

10日(日) 朝食後、23才の兄と、父、正手、隆平、白部車に乗る。十日戎へ行く。午後、藤子生、松平一秀の帰りに来る。夕方、鳴田帰寮、挨拶に来る。電話料1,380(収支外430)。なお、白鳥清生、佐藤、賀松の返事。

1/10 窪田如壽栄の1年間の休学願。鳴田松尾部長に~~相談~~へ戦場と交換要出。おかしなやり方
退職したい。杉浦正一郎の10日おきの手紙!

(2日) 澄枝、賀枝、学校へ8通。12.30 東井夫人来り、金折博士より音次活字ありし。今園中の幼推園長に之を
お返しと云ふ。百済先生は薛井寺へつれり。宮野^正敏は上野堂へつれり。と約束す。蒙文堂より
「主^主」研究年報17出来上り、城野もこれ。15.00 碇君来り、これに懸榮、春夫よりはとあふ。

1月31日(日)晴、中野英夫のわが村、武田家の被炊。午後保肥子段良departへ2回つれかえ、その留守の守屋君のわが村不在(錦山君より新年宴会の予定来る)。神田博士、信天君、和田先生、新田先生、天現山山崎君、中村君、赤野先生へ「雄略天皇」の表書す。保肥子手袋買ひ送り、いと。

2月16日 薩摩事務井上達三より書。2月15日付。午後6時山崎ハヤシ井上様へ(毎週綴・15.00 朝
日、後藤、許へ来た。出て宮尾に H. B. Morse International relations of the Chinese Em-
pire (400) 1 冊。吉永厚雄氏の coffee おいししと同社。3人にて梅田のオビエムヤで、山崎と
待つ。我々の出て天満、親子井へて帰宅。(後、潜水艦を送りと。他、勢 Singapore へ来たと)

2日 晴。登校。藤原生来の中心は恒に。宮野生、南藤生をこし限り区職と。小野生は明日大に
へ中まで金曜日の都合でくれとあり。上平、石清、生をのりあり。かた藤原生と、近鉄depart
五階のcafeのます。渡辺、金子より手紙。宇屋君より朝日会館へとあり。4川、戦前、幼稚園、
（足母と）。（北、藤原、明子姉より手紙あり。生への電話すあり。伊草生と。父君宿気と）。保田と竹田
龍児氏へ近頃略更。4川へ読るありと区事。

30 9.10 前登校、馬試験面接、後藤田府代F71/Rの車と手紙。白井2部と電話。子供72 Rの車と。17.11才42来合也前4.宜次、堀3生と十次、中沖氏59 age馬車走と有。津熊、西保2嬢と7人共。成義轉社報章。吉田太退社也此 七つと退案。

夕日 8.30 登校。13.30 和女に面談す。堀の母の電話、近き会ひなし。妹に車圓光、木の石午すきと
 伝ふ。小野と、大に叔母の会ひ字交わす要し。明日16.00まで来ふと云ふ。20.30まで和女に半室す。
 わが和女と小(星林)楠戸(佐施女)等、の女芸はしとて堀田(池田)泉岡(太年前)を入。最中、中
 井の、結果しとて(帰りの中、車裏ありと云ふ)。芝野を治治の上田局長の職位につ活しと云ふ。
 藤田先生、板前の受頭、山前より6日16.00三和裏へ、校正に来ふ。

5日 中2科1Fの幼稚園中庭へ行く係組の子と共に入り、登校すれば堀江の母へ会いなれど、17.00
近鉄5階で待ち。昼食時 根元 在子と入った。何探りかめかして卒業士すべしとなる。長沖、西宮二
氏協力。14.30 百済。上平2生と藤井君との中2科 大に叔母全身痛く。予告せしめておく。出るぞ

け運動するに他なせうと、憂鬱、茶おこりて吹雪の中を百済生と別水、アハ！橋のつ中は
堀生迎へる。母君より話せしに、實際未だ月の人おこるまゝにして陰氣の故にやと云ひ、先生
かはり所水は云へて。まゝ、先方に通せずと云ひておやう。帰州京入園手續すしと。
史をいふに夜半に圖書室、堀井の手紙読了。

2月6日 10.00 家を出て大午前、坪井の会へ入る。同破産のため何もいへず。無試験入会、好意大
うへ、存方の地味後藤田が来り。白井の中が不在。散髪(200)。午後20分待てると合の音分
を今宵にこま、昼食(42)終了。詩経(自由田記)室の響庭君訪ね茶菓上の主は水、向ふが誤
愛するの氣分を、亭の地味三郎の合小、先か取ら。地味主と来ると三浦君、主役三條より来ると
三和書房の中は山前、佐田、17.30からその破産後、佐田、佐木他へ去り、河平町角にて夕食
し。三條の別水三條書房にて佐田、口不経済大概要(120)室の常光、中野清之が来ると佐
丸の話をし。田中定子来り、佐田の来り補欠確り故、宜しくおれとす。

7日(日) 11.00 田中定子に電話。院名をへ。心臓石を来^りてと云、15.00 まで待たず、墨田博士を介して訪ねた。
次々、田中曜子技を出て三越の勤労社、洋服屋やらんこ。出ておるのとカ所、山口の家の外には之
屋、栗葉の根より、堀内ふつと南ヶ丘肺病入院か。市河三喜「言葉」(70) 置くとその訪ねし、教養中
西にかけはれり 20.00 まで引留め。若一番やりて夕食賜ふ。松平ゆき子(西崎山地之史記の中面
より)1.000 預りし嬢任母資格をとりたるのを告ぐ、22.00 まで帰宅。

甲 8日 家居 ⑤ 无 事 无。

9日 登校、漢文試験。校舎を2回作検、芝生を訪問、便所を点検。百濟水中企業にも上。高野
堀南教育を山崎課長より紹介受けた。小野見合村に通事所を設けた。白井に電話、足田に電話。堀
味、田君礼方に出た。村に今更へきた筒井の中西の金方と白井の女へ引受けた。馬場、山地両足
生を金6,500、位と。帰宅、神田信夫氏より挨拶の礼、西保百の27年支度経費の梅田善彦氏、
身許を、と。鈴木治氏より挨拶の礼。(神田定下、通縁が便宜に、堀の3部電話。)

10日 家母。大喧嘩。南は「いつまでもおとなしくして。山崎タツ子に嫁ぐ世話を要す」と。竹田龍史氏より頼み受取。

と集り、桂離宮の参観監督に付してとし、宇布子事の長沖氏と二人にて大宮専内へしてもみやろを
慮るのみ。出て十二日、荒木石呼み出し(2月向う合ふかす至稿も未知)面影にわき、野崎呼
出した人にてカフキ座で喫茶。別れた方が居て常盤垣文化の建設(50)に寄って帰宅。鑑庭君に
り電話待たず甲南への紹介をと、明日行くことを約束し終り。はな文芸のや祖國よりこれ諸
が依頼(文芸曰は大蔵卓氏の)。。

2月20日 警察学校へかき大塩平八郎の話。自動車にて下町まで送つてお返し秀英印刷より、袋紙
去帰と話し待つ中、13.30 社長連水夫人来り、大塩へ電話し大野君の連絡を、町立段の
て向い町、^{お女中さん}今娘が車にのりかたが武田理事君の話して見ると、去て駅で降りた社団法人
で不在、柳井君呼んで見し、藤井坂神田、お女中さんへ送り、山口端子君から三條、お茶し
智恵さんへ食はせておる。14.00宝園寺より塔替用紙。

210. 家居, 山前實治町見玉召。詩集譯の如と。伊東花子氏より肥下・埼玉の二地を以てと。
(日)
竹内氏, 國民文學論。

22日 8:00 前家を出、阪急前川から9:00、30分待てて岩倉・長沖2氏来り新大阪にて下車、雪降り来り。11:00 小出君と至り、高松塚拝観。2年20名余来り。オチエ太夫の中を駆り抜け、四位太夫のtashiにて三味線演奏。長沖氏の昼食あり。依田義賢の電話にて恩玉君の海軍時代のオチエのオチエの修学院前にて1時間あり。鶴森神社にておまじないあり。30分待てて車観。16:00 オチエ加茂大橋まで来り、別れに三和書房主とオチエ、山前君のオチエへおまじない来り。これに四條河原町まで行き上洛しておいておく。おんさんやのオチエ依田君、オチエと話しをうけ用意をオチエに紹介。昭和10年松文卒。20:40 山前君と七位より同車、帰途オチエ大阪降り、元也社より斎藤响と漢語入力と浅野是と現代の詩と送り来り。朝日新聞依田君と。文芸時。大菊。寄信 2生9 report。(おんさんやより祖國社の電話オチエ・奥西保君出て西位のオチエと3し。)

23日 晴。家居。木炭10俵入子。小田、弟受驗の爲28日に家へ宿泊せしむ。

2月24日 徳永昭子氏より3月28日葬式。その前に河村doctorと来江。昭子君よりハロキ。西條嬢
より明日連絡云々。12.00すぎに出会合。文人会へは29日朝 base-upにて3層裏せし。2.00より
文。大平前より平井の会。おれの出立前局上田局の会（はじの不在云々はナシ）。吉野
君の会へは湖西へやらまゐりておれし。おれの出立事務所。佐藤と cafe の tone 会せし。おれ
はし（肥下の特引受く）。17.00 出立 吉尾の 蘇峰 文政天保時代（80）7 巻。交換にて 昭子 会
論 30 日 7 巻にして帰電。藤子生より電話おれし（鑑延君の電話。毎毎おれの出立の事云々云々
行くと云々。明日迄待て云々）。

25日 登校。正史の試験をし、古校漢文の肉題をなし、入試の校正をし、筑摩書房の土井氏事務とて
 とし14.00迄に事あるに、上平氏も電話ありし事あり。やがて事し上平と話す。青柳氏の研究のゆく
 いやでいふに、土井氏来り別来を、来りしと、小川、吉川、教授、推薦。14.00に事し藤原氏
 3人にて我々に出。西影のなかを喫茶。土井氏井上清、富士正晴と友人と。Idem 向川氏事かてい
 たりしをきいて帰す。木下氏来り何操試験延期と云ふにきかず。藤原と出て浅下車、去るに
 春城の役所へ中川氏所と。家へ来て夫人に明日病院へ行くに云ふ。上野芝駅前に茶のたて
 け。おと4人の寄り夕飯ははな、向川氏と藤原氏と藤峰朝郎氏と井(180)と、
 (200)と云ふに帰宅。高野氏の堺市教委の試験の模様を報告。(14.20の会にsalary表
 明の出来) (西影和宛に電話し、来週金曜来り)。14.40服飾の呉氏と写真と。金
 木下氏と古氏と1,000倍。

20日 家を出て桂信子の墓へ。10.30 近鉄にて散髪。女工髪師の自費、1千円付した。田舎でこの院
で南郷の会へ15.00 頃まで。田村春雄の会へ。とて井張吉氏宿室の中へ入浴中。東井西山
2家、件名新の会へ2時。春雄 倉科と2時。至井と2時。昨日の席上より。去て時間より
心斎橋。梅を2時。梅の席より。映画見てから。生島、神戸の支店長と3時。15.30 日暮
ゆき中西1病院取。自殺とて女児を入れた。とて。帰れば西保君より歌と手紙。相手が秀才と。
赤穂生 暖く2時。井張の会へ2時。大瀬 9日(火) 18.00 労働会館にて。堀江の会へ2時。17時。9

3日 徳永嬢へ27日参勤のレターをきた。鷗身隔りの手紙。12.30まで登校。藤先生と、及落会員の志あるレター。八木家へ電話が小以外出。明日来レと云ふ。天満町へ押出しの即達す。松平先生は何か操と云ふ。教授会にて藤先生様代へ送は不。祝辞は山本陽下。おて(恰も来りて大に叔母の愛をきたしお歸生と云ふ)半回生に単位不足云々。高野浩子にらむして95。響起君にたまふ書翰士の傳言し。夕在場は了。南方半偏集17来レ。{(このbusにて我様子、片山亨彦君と同乗。bus代蹄如。片山清の妻山本姓にてお学校教師しと云ふ)}。

8日 昼由無事。⑦久。夕方鳥如と藤原の2class 来り靴を贈り、西宮家への惜しみ。そのと

夜山、大塚圭、14日(日)入室3周年^記周年^記会々会村の酒とあると会社と。昨迄。電話は西峽人として新聞、雑誌とあると、南の合は、明日の方と答へて。

3月9日 田中委員長菓子つて来る。(祖國)の寺 伊東静雄に 送る。11.30 西保、山中 2名おの
へかきて 会社 杉浦部長に 14日の会のこと、学院高等部にて 岩崎君の会へは 森校長も参
席せし。飯後 森校長の故郷 鎌倉と云つて。至大寺まで、荒木君の電話かゝしを 24日付に 杉浦
彦君下段に、代つて 佐々木君 15.00 まで待つ。鳥打、百海、藤原 3名と話し守り、三苦んを
けし 鳥打、顔おちて 事務にとがふ。青竹士は 西田と云へて話せし。気の毒か、西山家の
中に 森校長の会の中へ入る。出て 荒木君と話し 16.00 まで 佐々木君と 杉浦君の夕食 面談す。
待たし 荒木君 18.00 まで taxiにて 府立常務会館。12.3人相手の 堀屋雄の湯に出る。話
し、tobacco 2錠もす。三満掬で 喫茶。佐々木と 杉浦と 片々 情書 杉浦 渡野 是れ
り、李太白の 詩をいって 出た如く 伊東。奥の 伊東に 赴任、授任。布施校長署の中へ
せし。(Hの salary もうし 税金と 健康保険の 額をす。)(祖國) 3月 号 来る。(東井氏の 方
ふの 発表の 著をすし故、2名も 落ちしし)。徳島君の 速成の 件 西宮の 経過 来る せし。と。

10日 9.00 学院。試験監督し採点し(伊藤花子氏挨拶に事足。紹介状を渡し道場へ入る)
 15.00 出て白井(本居中)夫人の会。岡井信義の家へ。岸の里へ出て中村(前)守。名表を拝見
 天王寺へ出る。中村祐子と就職の挨拶。八木嬢の佛書目録を渡す。中村祐子 後務署
 へ中村 前納税金1000以上返しくれといふ。(文筆所信は半分の査定)。中村 祐子
 高校の採点表をみる。黒田永吾の長中氏の講演のむかし。

11/10 淺野先生に李右の返事。10.00 登校、面接。青生と卒業式の出発。響庭君の会食。山陽子と相談。16.30 返答して藤先生に答辞。中野清元と相談。17.00 返事。2人へ返事。(寺田君と相談して藤先生に返事)。

(2日 休日) と 20日 ~ 25日 日曜日 pingpong したり 松子 (昨日 杉浦氏 電話 した)。岩田 先生
と 7時 会 合 中。

3月13日 9. 同会社へ昨今村部長、竹村課長と快儀、至宜帮忙して下さる。家へ電話
かゝり、藤王生来る待つ。2 學書之史曜に再来、事務の中ずといひて帰るが藤王生帰るし
と。祖國社へ原稿受取。徳永比子嬢の 21, 28 の 2 ちうかに来てくれた。岩崎君へ 27
日来て泊れた。小高松二郎へ映画のうし。日中、浪華派同人會へ。と。岩崎、小高松 2 人へ
とわく状書く。

14日(日) 家居。伊東花子氏の桐器仿作展が東京出張中在りし。鎌倉洋子氏の祖國社仿作展も亦之に下之へ世話するに及ばれ。15日 藤原生友氏のついで来り、答辞深有り。其の教育関係2階客室討りぬ。小中学校授業あり。

15日 10.00 前学校へ。卒業式、送別会、謝恩会など。百済の兄、井上君、西川君、西山君と挨拶。
3. album 452. 16.30 退去。新潮社へ、増田雄全氏月報「2,400 ~ 360 = 2,040」(西宮君と牛前
君校へ「増田君と牛前君」)。

16日 9.00 会社。近藤達雄年息多の城市を又逢く(文三、山崎) 77村氏と話す。至君
酒の奇防を指すは我々の。21日は彼も用あり。今村氏、杉浦氏と又久い会ひ。葉、贈/
人減(安部音)金費3.000他上と云うて薩井寺。此村の人、希望退職せず。4郡和より
件来ぬ。還事なし。(相国華局の裏の壁子い合)
安部呼んで退職せよと云ひかれず。西保喜に子より人が来ると彼等迄に結納入ると。

17日 家居。昼飯。京都退職承知。有藤胸氏より、李太白の詩を、送る。既一種の古詩として
の意義がある。夜大塚名の呼んで、宴費位上へは、約束改定まで待つ。(夕飯時、汎量、進
歩、保士沢文氏(10日現)と、三印(教頭)の名を、45で補入する。→予知未了。)
既、予子病を、口口して、驚かし。又、信託子、化粧品を、信託子、お祝として、贈る。(670+55)

我にもお祝ひを下さる手紙書く。
 18日 不二来り4022222 富野ははうよせと保田の2人。13.の会社へお参詣。今部両部富の報
 告(守部 辞表を下さるお返し、池元、世2人は、茂山色町)天満より来りて讀書、整田君の「骨」を力に

3日 家居 德化入、佐子炊事と午後、中水風呂に入。午前7時39分、板に2錠7分入。高野敏子

8日 東京へよ。幼稚園。先立52名。天理教へpine-apple 礼ね54名。9.30 学校へ中。14.00
までかいりて時間家へ。前月火水木金(木夜)後月(月、夜)と3日。国外金貨7品送付

ナてくわてぬサ。帰宅すれば青木富太郎の挨拶。19.のすてハ本嬢の電話あり。夜更せし
れり。21.00より23.29まで眠り待つしが事す。第四林のPLにありし。

4月25日(日) 9.00ハ本嬢来り。モリス・柳木氏の会を父君の借金返済と見做されし。昼食後
とれぬて天をみておれ。此之舞にておれは淋毒をたまし。巻施君のトリスは連水家への礼
として2.00の高品券。大塚来り。22.00まで待つて眠る。百済の羊羹。

26日 家来。夜大塚56人來り。家費3600円以上(5月分)と云ふ。小倉の現実肯定を以て不快。何か
百済の羊羹。文芸時5月分。其の担任中塚はよく明瞭でく。

27日 登校前。竹村氏の電話で報告。大午前登校の中中塚先生は失脚の特色あり。市電にて
Pへ1枚。12.00学校へつて。中村先生が職へ入りにて。藤先生、電話で在りて先生課
に報告。国文先生2時間やりて帰宅。片平線鳴野に來りて宮に在り。何か学校へ宮沢さん
より退生5月4日召取居りて結婚。相手は27才の浅野氏と。家へ受取る。考夫が母の挨拶
に29日來り。

28日 朝、又の電話。考夫主部へも明日。登校の途、寺田所の石塚へ。フルフルーニ詩集「喜し
ては」江戸の文人(155)選にて。候所にて降りておれ。college hour 22.00に出
て不世。宇下先生の話を以て不快。14.00まで藤先生。叔母の房子に話す。父君に松尾三郎に未練あり。
此村のメノくおれを去。豊田院の清水先生を訪問。これに眠る。松原に下車。肥下方面に無
人。夜 salary 有るに池之界給はと云く。栗林、姉2.30中へ來りて。伊津井に礼400つ。上田
澤先生身が揺り方解りて相談す。ハ本嬢の混雑の中を帰る疲れは無執。何か学校へ西の敷
一軒。成尾。退き2枚書(礼の挨拶する)。

29日(土曜日) 電話かき城平叔父3600円の家費位上は納付せられ。これに竹村氏の会に在り。
今村氏とも相談の上。城平叔父の会へは3年後の今は負担上は必要なし。竹村課を午前中は
やりて。5月2日(土)より話る。大塚を呼ぶては「困り様あり。帰小生」考夫來り。東
京駅前の新丸ビル内の本店に在りて五反田の客と通ふ。おれを以て別る。藤田先生より要領に

振舞せし。いさ第2次私鉄社なり。

4月30日 出勤。途中私鉄 depart して Straty (4枚葉(100))。2時間教へて同士の電話は5日の
遠足に在りて知らず。出てハハ。荒木利夫訪へて不在。詩人への高橋の書(90)「雪」(近
鉄東内山へハハは野崎不在。5日遠足。面影にて ice-cream (4日前にて腹部に肩叩き)
太丸まで來て (Alain スター(30))。elevator にて鈴井氏の会。梅下訪へて不在。梅
下ハハを万字屋にて台湾文化史選100冊を置き。他は「経路を解きし中因下」唐詩及唐詩人
下7を新本に置き。家費の都合は30年会社にて。此場は海園に在りて詩の書出。

5月1日 May-day として来り。此の会へは要病に在りてと云ふ。午後、青山を散歩する人か。序
振の振動に在りて謝す。井上先生より山中。今市先生と2,3両で城平先生の家へ行く。高
藤先生に在りて三國史や學へ在りて挨拶。堀野村氏の巨嬢4日結婚の通知。高野先生
より圖書室整備で此し。

2日(日) 家来。⑤ 浪華芸文会より8日藤三村氏の講演と。中村。郊外電車社。

3日 10.00より城平叔父に電話。12.00まで。石川先生との桑港へのエハキ。11.30 両中を去。
資経営を自主的にせよとの5月準備期向と云ふの話。堂々不審らしく。石井・大塚可にて「祝
ね」來り。

4日 今社へハハは竹村氏と勤。請求書にてやりて。考夫先生に母不在にて受取怒味し。散髪して登
校。国文先生2時間やり。出て古本屋まで Stendhal 探せし。カ坂の堀内村に在りて今昔物語集より新刊
を選りて帰る。大塚より神経衰弱的な顔現出。哀れあり。

5日 子供の日。早(おれより)ハハにては9.15。立山(太田)藤野。伊藤の3人と会ひ同車にハハ。和
歌山駅で挨拶。他は銀座の姉妹。東。岸。北野。野山。山莊。吉田。和島と岸内の宮沢先生と
總部15名に在り。新和歌集ハハ。宮沢嬢。西保君の neck-tie 贈りてく。新和歌を登
食。すしを用意しおくれ。話し学要。他三井へハハ。また南海歌集より15.55よりハハ。
伊藤。東。岸。野山。山莊。吉田。和島と ice-cream をやりて。井上(100)「高皇」2冊に在り

5月15日 15日倭死子藤村へかくと云ふ9.00会社へ11時「戦争日記」を提出。空費について「15」の
目録へかきつけておくと。佐村氏と同車にて云満橋、宿舎へかきつけの室へかきつけ不在。三益、荒井の室に
やせ、喫茶室の裏の二（東段書房で「大和物語(40)」「春夫の書物珠篇(60)」「大和日記(100)」
解題台の傍りに(60)」。三益5月10日結婚せし。6月12日お会すると、日本へかきつけの信子君を呼ぶ及
畠・婦人科と云つたおまは、警察会館で昼食す。かかたが及畠を母君にせしへておしと。安き2回山
下へ出、上田史史訪ね、山本治右衛門の史書と云ふ、来橋で別る。佐村良幸よりかき、兩の講演会
の入り要のしと云ふ。倭死子帰り来り叔母男を大に悦ぶ。

16日(日) 水道管は水溢れ、10.00城南板文車、乗車して話し~~場~~^場にて安んず。11.30帰る。午台字屋裏
郡植民地中水来客にて上りず。桑田博士遠路視察会の計画を、可笑。明日=快信にて帰る。Sien-
bien-fu は 桑田府とよおへたり。

17日 家居。郵便は天路美津子詩集「車輪」。⁷ 電話、松井信子氏に、明日16.30まで病院にて待つ。
と。京々おま風取にて休む。「世界人名辞典」⁷ かく。Radioにて堀幸七人の声よく、万感²⁴ 24 22。

18日 登校。小野和子に電話ありし。宮沢弘子に南紀へおしとエハカキ。試験手ち1,500も
らふ。今宮の留井来り 6月19日 München 217.00に同窓会せん。 (住宅へ寄る洋紙を
大詩典を見、伊東詩碑のつを國語主任の先生と話し)。山本陽子と話しし。日赤へハ
けは'82井信子君帰宅。cardは托してありし。『新潮』買ひて屏風の『月太郎の話』を。

19日 登校。康熙帝書を college-hour とし、出。丹波道久の来りしを今か。6月12日
8.40に片付へ。住居へかき、洋歴史大辞典の「鄭成功」と「鄭芝龍」字す。18.30終
り帰リて教授会(西宮助教授 審査 passせしめて可なり)。西宮助教授
を教授会に出す。岡の妹、聴講生として入学許可。帰リて佐瀬のハカキを
講演会盛況なりしと、堀田善衛あかつきと訊わし。元々社より校正24日頃エ出
ると。夜1.00まで辞典かく。

20日 偕紀子以平凡社へ、阿桂、永明王、英山、汪景璣、王三槐、王倫、鄧國素、

安鏡瑤・魏喬介・魏象杞・琦善・恭親王・崔武邦、康熙帝・洪承綏・耿精忠・吳三桂・林瑋・戴名世・張廷玉・鄭芝龍・鄭成功を送らす(連署と499)。
登校して石炭足しに会へば新城市の口なまかと。此すみて14.つまで丹波の来るを得ず
長沖足生に紹介し給へて小野和子に会ふ。つれあひて喫茶・まむしをひ、あぐりつ食ふ。
吉生に会ふ。野崎と云ふ方にて17.00すぎ帰校。夜学教へて帰り、夜半3年めの井上(服部・信道)松本(今、鴻池羽田)と同車。松井信子より他の約束ありしと決り。

5月21日 学校へ電話し欠勤を届く。仕掛けの御く。軍林・平子・竹村氏の会の中
 かせ。帰る来りしに昨日10.00に来り。今日9日給29日分4,350を渡し明日の山
 つれゆくを約束。大塚来り、毎月15,000の補助申請すと(寮長・監督の給与、他の人事
 と俸給、加配束の支拂をのぞく)。賛成しおく。齋藤生より9月1部に轉ずるはいいかと。
 山前君より骨3,4冊ついで、9月12日連連来りて井上三郎のまじ原稿を出すと、善後
 の会代'を²³⁾8日(日)13.00より佐田宅にて。14.00よりかいて辞典の残り、査嗣英
 僧格林山、史可法、朱一貴、朱山尊、尚可喜、蒋延錫、徐廣緒、施琅、錢謙益、
 常紀沢、曹國荃、宋之清、莊廷鑑、李紱、趙全龍、兆惠、張廷言、張名振、
 張玉書、趙良棟、德楞泰、田文鏡、劉世明と書き、あと張玉倫のやきとす。

22日 栗林をたづね、8.30 家を出、語を倫子へ平凡社へ送る(33)。山形、藤田の母へ手紙を
去人会に手紙、明後日の出勤を知らせる。別れて互々大平平塚へ行く。若木利
夫に電話して知らせる。24日 多品を人へ止める。山形、藤田の母へ手紙を
渡す。話し、News 映画を見る(柳田國男の著(80) 先祖の伝(80) リー・ア・エ・エ、nice
Curry 含む)。山形、藤田の母へ手紙を8月27日の書に添える。吉野君の16日展と
行く。平土文子弟に手紙を送る。

[illegible]

2回は伊藤、銀治、林、菊池(十の帰ル)等、北野、~~西野~~、相良、中馬(野姓生田)等下、寺下、
中野、野崎、足田、藤野、本多、松井(渡田底気にて合社と勤)今市(安村)山莊、山中、和島の
20人。3回は大浦、上野、鎌倉、北沢、石濱、小島、佐瀬、天満、島田、内藤、中山、中川、34、
成尾、西園、西山、西野、24、武、荻原、浅谷、林、藤原、馬路、松島、八木、の29人と27人、成尾
工。第二回は島田、中野、出雲、森、家本^{7人(福田)}。西田等下等接待す。字史と西陣組とにせし、北野より
新和野、字史と校もす。銀治部江に別手宜しとせし、15.30、中馬と出れば石濱、馬路も600
待つ。石濱と江に3人誘ひて2人、高島屋、4時頃帰宅す。juice 本27、馬路つてて天牛南谷にせし
大字記簿年1冊、手へて543、その羽衣福景君来りし。元々社江、¹ 幸太白¹ 68頁まで初校。这
是日7月6号。

5月30日 純日家居。筑摩書房編集長土井一正(電二) 8月末日の予定と。

6月10日 登校。鳥井の電話が、長計と生お世話をしに帰ると、宮口先生へ手紙を渡す。もう5人
と。荒木村夫の電話が、いよいよ、^{あやめ}^{あやめ}骨57出来た。後髪はくも剃して授業。そして明日
新井先生の話と、このか藤郎のわき見小娘夫人留守。栗へ先生を迎へんかし。Tさん出て荒木
君の会ふ。我が詩をほむ。さうて大丸へ鉄商屋といへく。我にはわからぬ。梅子の手紙に
すぐ出て帰宅（野崎の手紙で銀治初江の意向を述べ、なんでもなし。）銀治初江に上り込んで
ある。山田幸希の Gull でスッ路上へ移る。電話も 35-8368 とかはりし。高橋重臣より
来意へ書きをし。（けとせ鉄 depart 前の警衛夫人の面々、可なりな来意といわれ、えいと答ふ。）
2日 雨。登校。9.15 の中村は 9.00 はじまりなり。杉山平一君と話し、骨1冊交へる向に寿岳博士来
られ、ふべ新井先生とか藤郎に泊らんと。^{南書更紗}の sign のことへは「有といせよ、或するこ
ろを講堂に入り、一体として茶珍博士の生活改善話よく。家庭婦人の教養時間平均15分と。
その次に新井出轉しつ。花いたまひしものかな。寿岳先生の呼ばれ sign にあらひ。また研究室
室。西宮君自動車に乗って京都へ行くを命ぜらす。院長つかへ銀治初江に 3.00 まで待つて馬車と
いかにへは「宜し。土曜午前中来て書いてやる。^{12/}前よりまたまの野崎敏子に会う忙しといふ。

教授会、文1細^五紙(学院)家出^二し^一、久保田の一味^五紙。771半し西宮君と^二て^一い^二て^一帰定、李太白^一神授102頁紙。42字屋君と^二書^一て^二合^一、墨田博士の合、雪内出^二せ^一。

至るは心算あり 12日(土) 14.00 錦江口にて、北京へと。

6月3日 朝、仕事(定時)で至^原の5,000を返す。9,000を學校、正教へ。1時間休む。吉仲氏来り云金銀
治初江のこゝへ。4時限屋上で Schubert の Wiegenlied を教へ。又保田と云^保細^保のこゝへ。叔
母の家におし。又逮捕されしと云う新聞あり。樺垣氏の言語生活のこゝへ。田中塊堂氏の^{田中}文庫
のこの簡記を來す。しるへに答ふ(夜帰るに足れば、白香山集巻26の江州司馬府記、中略
友) 15,00まで得て補^補事令代。女師4人出て中^中盛人^盛なり。田^田原^原四^四國^國へおし。親子井倉にて夜
学。伊東マ子呼んで^呼骨^骨へおし。帰^帰り^り李^李共^共日^日132まで。公校見えて。京^京京^京へ。佐^佐佐^佐佐^佐序^序
り帰^帰路^路と。日^日教^教人^人。(石^石石^石石^石令^令代^代の前^前に來^來り^り話^話せり)

4日 佐村氏に電話、来日。HはHの 0118. 04中22分村部長と話した。10.00出て登校。所野に
いふ人へ電話ありし。わかる。文で名簿帳の至近世4118 近視6人。23佐村へ電話した。H
の南へ去しHで死にし 藤田肇は 越田 女史の男と。95はどやといふ。F史すまわし山で重戦
君の電話、浪大の2年生の犯行、家庭教師と。Hは火曜のやといふし23へ西宮君へ
在席変更の2年要義申し立てし。Hで説明し大所、波綿にも様垣と懇談せし。salary
Hは、健康上72 28,000の年取7.45し羊羹食へて出。22222%の程にし山で事務所へ行く。
山で「葬儀」の中し。nice-curry あり、とH古4屋、高屋の至近偏双了(150)「向北
那(50)」とH記し天上の炎(40)「電72大。五群五群中江向72 煙草、毎月9万へ向へは」向
いへ来り鉛筆あり。Hで帰る。馬路最子へ礼状。

5月 8.00より会社の中心で働き、9.00前まで今村部長の会社の答弁を待つ。月曜に再来を約して登校。(健保証書などへ2週間返還)。鍛冶師として2年class 要領のことは「博垣氏」の再考を約せし。1年1月まで来て、元々社のための字を待つ。11.35 院長は鍛冶師と合はせ、安否、2名の紹介をさせて、久保田肉類起せしとい、学院へ~~来る~~^{来る}。これは"soft-ball"部員はせ。

在學中授業が止り、十時と一が来り不運な所と(住吉学園)。その夜、銀座に出で千曲、野崎を訪ね昼食をとり、これより相良、燕雲の2卒業生を会せしむ。大丸へかい進、我々の上で在校の卒業生に会ひし声々々々。Negas⁷へつかれて、惣茶。大丸へかへは又銀座の會ひ。伊藤佐太郎、森島外⁷(30)、(偏寄節吟茶⁷(30)買ひ、梅田で news 映画と、惣茶し、吹田、30人會ひ、泊り(西南アニアの趨勢⁷(30))。富松橋井會合(逆寄建で捕はる radio。

6月6日(日) 10.00 札幌到着。11.30 Calm で coffee 飲。下村又々々 人文地理辞典と 胆振の地質 寄せて帰
宅。雨。午後5時 札幌降。岩崎昭彦 札幌市。耳風社より 札幌の歴史 寄せて。鶴巻は7月中旬
に拂ふ。李太白 18op. まで。長山来りし4冊、会社の解答カード。宝島色紙は 8月? にする故
15.000 渡すは止む。一応自治会選挙の仕度不足のことは改めて交渉せよと云う。横山来り
20日 辞職 帰郷と。至君に出しし中已 留めを中止す!

7日 5へも今朝自治会より連絡なく、竹野氏に電話し今朝部長に連絡がとれた。宮尾書斎の書用。
今朝19期生会が来た。午後、万葉子より「祖国」返し来り、筆子と手紙。午後、大塚来り。

8日 9.00 自宅を出て 骨⁷を西4、中野清也、堀端、蒲池の諸氏に送る。天王寺にて坪井の逢ふ。
東野、相野、石とへ行く。骨⁷1冊を石に。学校へ4冊。昨日の伊東来上人来りしと、革靴下おき
く。銀瓶君のnote 1冊を机におく。神楽殿、佐馬樂主、新南都の宮口、傳田2名にしか
愛読書⁷の記事をさしこんでせし旨を中へ。午後の「國文大」すまやに山田重武氏へ電話。
すく住宅へきた吉岡君の許へ伴はれ木曜夜に語を教ふことゝする。浪大2年3。出て
高島屋へおき white shirt 2枚を束上りせし。森本、在りしもの平沢氏へ5(50)の
面影⁷にて贈答。11お来太の部校2/2p.まで出た。11お東生5日の字更2枚を束上りせしと告る。

9日 登校。西宮市事元々社の山安否と聞き、渋谷のヒトリは未現像と。田中環堂と兄事と
白氏文集のついで見と。日字経緯巻(2,200!)と題ふ。大掃除中。+1490年29日
920ヒトリと。単位のと方々不十分なる様子につき思ひて久保田の父宅へ44日不在。
祖父様田部氏の会ひのちて連絡あり。帰校(Bourne夫人(90))と44日図書室へ

Basket-Ball の練習す。主君のついで森の宮の十時定いやと君と話せば男校の。帰れば君とせん。電話かいて来ると。待つるしん21.00主君電話来すと。疲れては驚ハ主君より、往時へつてのて返答。

6/10日 京風聊らしく時2発熱しけぬ幼稚園休む。9.00才女學校。お茶来客あり。別々に出
て走つた馬鹿らし。山崎理事と夫人の要請下しと片挨拶。立食の時池坊の立花を鑑みとせ
す。12.20 才女で「芸芸春秋」で14.00 加藤夫人の礼へゆき。一旦帰校。兩才女郎と子
の中ははなはだの母の可憐さの歌母にやれ。4.00 中を同窓会へおとす西doctorへ
の伝言あり。下へ、橋へ出て夕食。母校へ帰る。柳井三千代氏との会へて深夜まで子
の電話あり。大阪書籍へ電話し、20.00 来ておとす。吉野原王にやれつ。と
し、おとすへおとすおとすの道を教習書へ。2.00 夜向うふりておとすへて。お茶。
4.00 前へおとす。taxiで鶴橋へ出て帰る。22.00。おとすの幼校へおとす。24.00 p.
おとすおとす中国陶器。おとすおとすおとす(13.00)おとすの金せん。おとすおとすおとす。

11日 登校。厂主の口で中がす、すべて場へかき肥下へ会ひ、平田を呼い今村先生の師へ会へば34月
休養して上と(金田へかきお、教子、純子の会へ、女児は3月8日の出生息子と名づけし)音囀り下車
すから「ヤマシ」の会へ、森生とbonus後の遊むわく、3人にてbusに+2人、館客あつた憎らんとすれ
ば中野先生等々出雲屋でまゐしおいら(留の金買費100円、預了)石居江川明日の桑田博士の会へて。
祖国の方。大塚幸7月曜10.00に竹村氏の会ひの中へと約束。12元と社へ持込る略証に違ふ。

12は 8.00すぎ家を出て8.40片町駅にて一丁の自動車にて警察学校。4時過ぎに帰宅。準備せず。太田の兵隊」と誤謬あり。10.05すぎ、48号の調査員が来た。道連れ、科第の席の中にも不在。店中へ入った。竹村氏に遭い、月曜10.00に会社へ行く。坪井も常々不在。おてきまめにて上町8丁目へ来た。上宮病院へ今村先生を足解す。帰る途の吉川仁の店の前へ来た。伊豆の湯の池へ来た。上6まで来た。nice curry 食す。王地書房にて「伊豆の湯の池」の要領(40)と書状(他12)と「(70)」と買った。市電のうめは「前」生徒あり。とて「図書館」へ下車。夜更けの juice のまじ。山を幸ひたへ来た。

夜「世界人名辞典」にて 寧完我・年羹堯・范文程・費揚古・福康安・傅恒 書く。

22日 登校前、会社へかき729日清算し10,000貸与せる。学校へかき、齋藤加寿枝と英語とれ
どりに夜子2人来る。齋藤は下宿して35才の若むい卒業しなした。因ておすまし、おの齋藤
と話し、院長・主事の会にその盗難ありし、^(三村の宮本枝)7月8日云理(團)と云と云ふ。齋藤の復讐話し、
17日 銀治君と出て4日前、面影で coffee おいし。野崎の7月8日の bus 出つた。
天牛南子で春を別れたる妻に与へる書(30)「女子」空しき花束(150)「雪小」(やみ)読者生
字変了校受了、2校を元々社に返す)帰りは、^{吉本}吉本の「校正」をて来ててり。朴慶植君
より池田先生の「おの礼状」。

24日 登校。1時間用事で(片倉先生より mega の文をへば持て)。近所のエタ社へ送る。昼食
 橋本・オサキ・来々。食くら。退校後 17, 8時 1泊で 森岡へかか。15.00 下向家へかき独
 乙倍。オサキ、映画、作品辞典、電の帰校。森岡と話し、夜学教へて帰る。17.00 王宮へ
 3,000 送し、1月9日残りし。(40 北畠-帝塚山向の電車に林敏母へかき)。 (中野ト子より電
 話あり。class 会不出常々私にたかき。うず)。

清兄に李太白の「不要^二功^一名^二利^一」と云ふ句氣要して、横山^二竺^一 = 二ツ合^二死^一か一生^二 build. 云^二釋^一して。
中村孝兄に誤りの謝状。厚^二同^一情士^二の^一会^二の^一享^二幸^一來^二。

27日 (D) 家母。与方学⁷来。无⁷言⁷とE⁷書⁷。速⁶にcoverの帯⁷文書⁷。

29日 登校。今年卒業の各部(幼稚園)山田(城東+秋枝)大菊、四と来り待たぬ。活字中。斎藤幸
下宿やかまじ。7月8日の天理図書館より来た注意、折山に足音を呼んでくたさの件を、八口出て
帰先。吉島君に「蘇東坡」承知。保田に上ると。(電車の中尾君の会へは「健任」をいせとて)。
けお 新南部10日の安部各衛、折山、十野との座談会とあり、夜中肉家へ電話し、26日4
くとお。

30日 雨。登校。college-hour はず。2つ2つ雨にて被害あり様子(うちは"阿和"高野路不通と云く) 荒木勉夫に電話して明日の座談会へは来ると、高野あつ、待集りたりと。午後、藤東一收字しなとて15.15まで待て教授会。18.00すぎに帰宅。荒木を入れたか? 2人の中。夜、鳴田

注意し、正田生は15.30迄鉄古が新いて合ふを話し、菊藤君と出て古が居るを「韓語字典」を
常塚の書庫にreserveせしめ、P.H.で喫茶し終る。正田は縁台で話せよと字書と題数
書わらす。官吏と教師はいせと。大に叔母の会へは「見ては29間太郎和子の許へ押かけ縁台
後話をせしめしと、女むらし。正田生の家来見せしと相争いせず。帰れは「美子の電話」
第1の参考書見せしと。全暇やくと約す。山本書庫の事用。大塚の会社の返答に不満。も一
度会谈せんと要求。又大に叔母の兄の村氏停年退職となりしと。

7月8日 大.西.中野と3通上主通信。8.00至11.00常磐山書店へ2.店主と話し文芸界、朝鮮活
辞典(11.00)1.夏内山上海語語7つけてもらふ。学校へ2.9.00院会来られし中。9.15出版。11.00
前王理園着。院会と富永館名の所へ送りし。我は4時30分なりし。中国地図は日比野文士に
初稿見てもらふ。13.00出て参考館へ行く頃大波君現はれ生駒氏来り。14.00出て中宮寺。蒸暑
を22限りし。すて法隆寺前で院会と cider おつてもらふ。乗車。16.30帰着。17.20山崎2
class 委員のやりは市川氏 11月15.00より1.5時間話してくれり。野崎君。様証をいまへて有能
読んちと夕食に2夜学。すば"田中氏(Heine) 来り signし。斎藤氏。福井氏呼ぶ。市と清水
委員と長谷川へ遠征を31-1月7日の2回とをへてとて出る。お4.22由2日重橋まで送り来
る。木村氏今春藤氏の案内せんとす。

9日 9.30登校。芥川氏の電報が来た。匠へ来ずと云ふ。寺川氏の長良川へ遠足のことには「御注意」にて。
 21日 小野常氏来り。南太にて「雄略三記」の如く人可くし。吉村盛孝氏「田中」は勉強せよと云ふ。
 と。午すぎより大講堂から小講堂へ移り、15.30 芥川氏来りて大講堂とせり。17.45まで信々と話せり。二つの方で心配す。自動車にて送り出し（14日には bonus 16日、来月 salary 10日と）市向家へ来てドイツ語1時間。田中へ rice curry をとりて今日。城軍ねえで帰る。
 正平 class で1番と云ふ。22.30まで教へてお別れして帰宅。山前君より12月6日の初校11日13.00 依田郵でと。芥川清君エハハキ。自「短会報」(今今川で岡田圓子先生に会ふ。城軍ねえへやく金のお宝ありし)。

7月10日 11.00 竹村会連の区戦の話を。お昼寝し14.00 覚む。(7) 8月12日 中野英夫君 人から来る。

偶然か、しき。西條照子のお題。17.の古く『文芸春秋』で、会社にて城平叔文に手紙行
を乞ひ、田中正平博士の遺族を訪ねたこと。会社は赤字と正確に決定せんと。更不快。
杉浦氏と来て駅前で別れた。

11月(日) 9.00 正午 車ヲ我ニ交ヒテ漢文、國文法教。corbeauの出版記念会ヲハカキ車ヲ、12.30
出テ上洛、印刷書房ニ寄リ「正葉 3冊(2.00)」寄附ヘ運水トシテ、拾遺和歌集(80)「天保モノカニ
リ(100)」買ヒテ依田邸14.00、ナリニ5人寄リテ、初校ノ校正。至15.15 corbeauの会12.18日ト。ナカ
ニ雅語、字彙トナニシ。18.00出テ佐々木、井上、山前ノ3君ヒト食(4人5君ニ伊佐詩碑100ツ、贈ル)
別ホテ京都書院デ記湯、武田2冊±0.50 茶歌ト正字教本ノ私筆記(3.50) 寄附ヘ運スニヒシ、
高青邱(80)「枕草子(80)」李太白3冊「1.50」と。大寺堂デ、山崎民譯集(230)「野見堂」撰輯語國
風土記(50)「端淑記(50)」在讀書庄(50)「と買ヒテ帰宅。ナカ山崎ノ電信可寄ルナシト車ヲ。

12日 10.00 会社へきて旅行届を14~20までとし、父に書類預け、電話料700円出した。5. 佳吉へ行く。途中
おとめ叔母の会合、藤井亭へ行く。大に叔母に伝言あり、此處で路君に会い、山下君に本向家の謝
礼の報告し、学校、宇布、三^吉院長のついでに旅行届し、本向家へきて教へ(西宮君の手紙置く、沢
下氏より手紙)梅田へ行く。帰りは丹羽美佐子、愛耶母子を客としてやうと。高島君の車坡7の受
取。鶴身陽子よりハカキ。元々社より20部送つた。

13日 家居。夕方。午後西保嬢即預人の奥嬢同伴して来る。大のハカキ。中野英共其のくさの偶然に驚かす。夜小野和子の電話、木曜に恩玉氏に会はず。上へ信へて来る。幸太白くも来ず。

1/4日 安田喜久江「白狐」の初版中又は静雄のつて10枚を8月100枚でう。依て本邦序の地を人の
と。12.000枚10.000枚と出、今宜なかき同密会品簿1冊買ひ。筒井の会報5部とす。8月2日
狐の行情2冊に付、rain-coat買ひ(1.600)千を山ナツ子と着に預つてとす。横山と二人「狐」
と、とら「狐」5冊買ひ(3000)「ハズメ」帯に付「ハズメ」とす。高田7.000前着、との
下宿に付。

7月5日 下の北村片断にて成否が分らず、可哀。父母は一室に保護せんと。これにて東京駅の朝を
とせ、西へ電話してゆき、狐の詩情¹土産にわたす。梅井、関口(東部副総監に在りし)と会つ
たを云ふに「月曜の会せん」と。梅井、関口の両の上京とせよと云ふなり。今度にて民衆銀行のゆも考
えん会ふ。8月3、4日 1時PM迄。おれにて自來車。元々社を三軒町に移しあり社長の会へば「20部を此への筆
贈せよ。われは20送れど、其10部是れ。蒲田氏の電話、家にて待つてゐる客内とせられ。大と
おれ、二PMにて空を接待台へ。奇装束の他日同行をゆひ おれ、別荘へ電ひゆき、水田急
にて和田氏に。速に67受取つ、返却せしめ、欠呈あり。東澤文庫の岩井生事の復讐とい入するは不
けれど、校書長對「詩人に此は」とのべ。かつゆせしと二三の中山八郎氏より、平部にも不快也。去
中野英史宅訪ぬれば外出、電話して明日9時に再訪いふ。去水田急梅ヶ丘駅に出で上野橋
本即ち方へ。外士中五此「怪しまつ泊りて居る。

16日 市川 bus 停留所まで送ってしまひ已給所前で降り、中野英夫に会う。近江老師弟の妻は
 17
 18
 19
 20
 21
 22
 23
 24
 25
 26
 27
 28
 29
 30
 31
 32
 33
 34
 35
 36
 37
 38
 39
 40
 41
 42
 43
 44
 45
 46
 47
 48
 49
 50
 51
 52
 53
 54
 55
 56
 57
 58
 59
 60
 61
 62
 63
 64
 65
 66
 67
 68
 69
 70
 71
 72
 73
 74
 75
 76
 77
 78
 79
 80
 81
 82
 83
 84
 85
 86
 87
 88
 89
 90
 91
 92
 93
 94
 95
 96
 97
 98
 99
 100
 101
 102
 103
 104
 105
 106
 107
 108
 109
 110
 111
 112
 113
 114
 115
 116
 117
 118
 119
 120
 121
 122
 123
 124
 125
 126
 127
 128
 129
 130
 131
 132
 133
 134
 135
 136
 137
 138
 139
 140
 141
 142
 143
 144
 145
 146
 147
 148
 149
 150
 151
 152
 153
 154
 155
 156
 157
 158
 159
 160
 161
 162
 163
 164
 165
 166
 167
 168
 169
 170
 171
 172
 173
 174
 175
 176
 177
 178
 179
 180
 181
 182
 183
 184
 185
 186
 187
 188
 189
 190
 191
 192
 193
 194
 195
 196
 197
 198
 199
 200
 201
 202
 203
 204
 205
 206
 207
 208
 209
 210
 211
 212
 213
 214
 215
 216
 217
 218
 219
 220
 221
 222
 223
 224
 225
 226
 227
 228
 229
 230
 231
 232
 233
 234
 235
 236
 237
 238
 239
 240
 241
 242
 243
 244
 245
 246
 247
 248
 249
 250
 251
 252
 253
 254
 255
 256
 257
 258
 259
 260
 261
 262
 263
 264
 265
 266
 267
 268
 269
 270
 271
 272
 273
 274
 275
 276
 277
 278
 279
 280
 281
 282
 283
 284
 285
 286
 287
 288
 289
 290
 291
 292
 293
 294
 295
 296
 297
 298
 299
 300
 301
 302
 303
 304
 305
 306
 307
 308
 309
 310
 311
 312
 313
 314
 315
 316
 317
 318
 319
 320
 321
 322
 323
 324
 325
 326
 327
 328
 329
 330
 331
 332
 333
 334
 335
 336
 337
 338
 339
 340
 341
 342
 343
 344
 345
 346
 347
 348
 349
 350
 351
 352
 353
 354
 355
 356
 357
 358
 359
 360
 361
 362
 363
 364
 365
 366
 367
 368
 369
 370
 371
 372
 373
 374
 375
 376
 377
 378
 379
 380
 381
 382
 383
 384
 385
 386
 387
 388
 389
 390
 391
 392
 393
 394
 395
 396
 397
 398
 399
 400
 401
 402
 403
 404
 405
 406
 407
 408
 409
 410
 411
 412
 413
 414
 415
 416
 417
 418
 419
 420
 421
 422
 423
 424
 425
 426
 427
 428
 429
 430
 431
 432
 433
 434
 435
 436
 437
 438
 439
 440
 441
 442
 443
 444
 445
 446
 447
 448
 449
 450
 451
 452
 453
 454
 455
 456
 457
 458
 459
 460
 461
 462
 463
 464
 465
 466
 467
 468
 469
 470
 471
 472
 473
 474
 475
 476
 477
 478
 479
 480
 481
 482
 483
 484
 485
 486
 487
 488
 489
 490
 491
 492
 493
 494
 495
 496
 497
 498
 499
 500
 501
 502
 503
 504
 505
 506
 507
 508
 509
 510
 511
 512
 513
 514
 515
 516
 517
 518
 519
 520
 521
 522
 523
 524
 525
 526
 527
 528
 529
 530
 531
 532
 533
 5

17日 10.00 丸と出て bus にて京東駅(丸は隅田川で下車) 西ヶ下作の古民家へ電話し 15.00 に行くと
19日 15.00 に来るとおとこは丸来た。出て靴をぬかぬ(20) 昭和銀行の中へ 12.00 河野孝夫の自宅に
会って大喧嘩し。電話に西武第一の会社へおとこ。行方不明(野村に) 在り。おとこ丸の口で。警察
へ話し。(連太郎警官に話し) 神田神保町へ自動車。おとこは 2 時間。藤子坂(100)。水戸橋まで歩
く。京上線馬へおとこ 15.00 都立へおとこ 家へおとこ。会っておとこは 承知し 19日おとこは調へておとこ

と、すていか博に於て6月、いまは2部隊の態と、再会給にbus. 池袋に出でまわしなむ(130
十をすむか)大報へかき"大と"らす. white-shirt なる吉祥寺、電話にてすむか、近へ
来てし. 中村は貧乏話、いかにある、いかに長島宮一とたがし、浅野建夫に電話に近へ来てゆか
とて、せしとらへ臨生降り来、話す中、麓保寿氏と防生と面識と。並に近してゆ来め場所
中村は浅野すむか待てり。三鷹駅近く、定むかき、まけは寺内玄仲の許にあり。Medanも
Singaporeもより近。藤田貢に電話し、来むかめしかのそかす丸山正三郎、中村治之と往来す
と。語言はRussia語とMelay語とに達する。風呂にありて就寝12.30。14.18.00す
むか電報打てず。

7月18日(日) 9. 浅野の自筆送状にて藤田家へ。中村治光と云ふ人と、子供成蹊学校へお見えと。夫人は従兄の妹にて浅野史と同级。病弱なり。10.00 出て常磐線の停車場に降り、上り迎へた。来て田中佐蔵家を訪ねし出てきて謝状。『四季』返し。聖心女学院のついで向島浦。至り浅野2史と来られ女中とせし史子科あり。但し停車場まで送られ。渋谷へ去。有線ありて浦和。竹内家の家へお見え。14.00 着。夫人は散々お話を聞かせた。平井と云ふ。話中面白き人なり。はかり押さへてお見せ。2女を産む。長女は送られて大宮。宮崎贈呈。明日夫をapartへ訪ね。夕飯の後は。七人の新婦へ去。平井へ電話して明日薔薇の白史を訪ねるを申し。2男と別れて小田原。小田原右岸の平井と云ふ女に薄井邸を訪ねられ。2人も2女。薄井へ似し面あり。夫人朗かに却つて表れり。忽ち去りて去(つま向貸しにて生計を立て)暫く。悲しく post-wine 置りて太田と云ふ。や、鬱暗。(途中古書を見て中世民謡集(30)買ひ。)

19日 9.00 出て bus にて 東武東上線。四谷⁷ 駅。日暮橋にて下車。日暮橋から越草訪ねて行くので区職員。放逐局の勤め。ついでに。角川カネヲ編集次長に会った。平凡社へ送られて。翌日¹/冊と出て。市谷下車。平凡社にて王正編集次長に会った。松柳の催促で13.00 近くまで。信の老人に説教し。蒲池の電話に新宿駅に集合と教し。toad 食って奮然。中村の待て。有藤の待つて

chocolate 買入(500) 来王より空懐不効下車。奇藤氏に訪ねた後在室。15.30まで話し、^種苗圃園へ訪ねて退去。新聞着16.30。coffeeまで話し。お茶水にて蒲池氏と語り合つて至交駅17.00。西山会社へ中休。丸待ちやみで^{加藤}定雄来り用事としてすいず。ちと宮垣谷口。森田氏。至田と大谷等つれよ。浅草^電車の加茂作⁷につく。南口。西山と芝へ来り防衛方山田人事課長の紹介書と明日発行書とをつくへし。久保は不在。防衛大生。防衛研究社やんへつらう⁷と也。おやめく礼名ふ。丸木本村長官の運動しくじと。至田より東京と丸方司氏の吾男⁷の来す。宮垣は来た⁷と因利和口にて紹介せしむと也。20.00散会。南口の自部車にて有楽町(西急第一。西山へつれ故紹介せしと也)宮垣と降り。調査部へ送れ⁷かた正平様と⁷とて調へてしへば20年秋。吾男楠孫と。大森の女の下宿⁷かたは不在。20.45まで待て⁷山王⁷とてお宿へつれ泊る。

7月20日 6.00起床。7.00大下宿いやははふふと帰す。朝直に歌前まで来て直。美濃紙。墨汁
墨。筆で履歴書を書き。とて出て系図。防衛庁につけて11.30。局長室でいかに待ちて12.40山
田隊長に会い。しらへて見せ。2週間久保は依頼の手紙かく。天よりふと両面を食て東京駅。西の会
社にやははふふ。園の電話で報告し。太田氏の電話いかに夢へて来。立川防子君にかけ。電話す
は和田節子と会い来てくわす。16.00 系図かと約し。~~有楽町~~の日交連協会mail。をたす。新鋭経営者
協会。田中勤太の会。やははふふの命息。川口技研所研究所に電話してく。正平博士の 後嗣田
中楠高太氏(病卧中)を呼出し話にも。毎日の寄。桐山氏呼出し不在。遺手紙し。東京駅。
大妻。和田。立川2氏に来る。地下。座司のやき喫茶。立川氏 9月 伊賀の松任と。入るまじ人々
よてははは中各名雄。漢野史。中てとへは。保田の昼まをて送りかへす。外村茂。大庭
卓氏も取り。漢野史。あ双書に。楊貴妃とクレオパトラもあすへし。諾して。2夫人より土産
もする(2週間大。河野孝夫より1.000借り来りくわし) 大と酣々。堀場正夫氏夕にふふ。
保田~~と~~泊りし。あて朝日放送に在郡浦三君訪わしし帰宅。19.20の明星号のりて西下。
21日 浅松ありより気分あしくしが。大垣で度々限る。6.30 上着着。徳島駅に四季7時来て帰宅。朝

食也。堀^田の電話あり。山下藤太郎の母の礼に下。小林仁太の父の元。村田初枝の
リ香葉返し。(9) 多く事あり。奥靖子姉の礼状。小林英俊の西行君の依位。和田定生との
行也との印送事。浪中の18日同窓会と。赤塚依郎氏の云居通知。横山重二の礼
状。森友己博士より「風走台湾」の佐賀女同封。大塚女将存命と！ 藤村是の礼状。山
本信生氏の女中礼状。母の要依の25日辰吉8時でいへる会と。冬女工高野
山行7月29日8時10分+小児の査更。8月分salary 12/10日と。安田素生氏の遠太の受取。
伊豆花子氏の石碑9月の建つこと。小宮花=印の受取。外山軍治、竹田龍児、河村純一氏
り合。宮口生上高地の。神田信夫氏の礼状。吉岡隆之助氏の普中尺舞。
味耶の中子へ合へる。吉井榮治の受取。USおしててくれ中村光子の普中尺舞。天路
のハコヤ。小林仁太の父の元。通状。竹村氏の電話。旧後月17日の会社で合し。自治運営の
元商人と合し。大塚幸の自治。22日22日途中。栗林榮事。23日22日事と。山下藤
太郎、旦那様奥様嬢様と合し。要旨とす。

7月22日。9.00オオ会社へカバ"父"と。城平知夫の待てさ、やめてましの田中勤、市南院その両家の話すれは。ふるまの至幸置きて父の町遊しうた。今村部長の栗林のこゝろに。あふんて天満橋。名物南とや天祥堂一呼いふせば。荷藤安秀君の紹介する。とれい電装、赤木白の紹介のみ。オ一生命tail.の4中壺とつわ。洋中 陽やしてこつかへてとすれは。家へもつて。昼食に誘ひ、我々のrice curry 食ふに。とれい桂信子。(天満橋にて吾々閑談半日(80)遅上)別れて臨神へたれと河を渡る。new映画見てす。昨日かみり。暑し。(新の诗情7を木村のて買ひし。30を)。浅野正子に明日車と。桐山雲君のつとれと。林高士君の。電話であかりし。馬路生に舞。佐木利正の今。野原の達達。毎日止上。

236. 読研巨へ電性。9月15日接へ事あり。読研以上、栗田、各口、森、加藤、城崎、青木等との
 文へ書きたり。栗田、丸、西村へ承知。瀧田氏へ。庄研浦三層のあり状。中研清足のあり状。
 17. 庄研、中研、読研連名へハナキ。吉岡は瀧田氏へ中研清足のあり状。青木氏へ承知。

25日(日) 胡山芝、中村史子、森友己、南部^茶葉子、小林仁子、福永ハナ子。西信、前藤2封へ^骨67。
9.30 家を出て散歩。11.00 阪急池田駅へ人影なし。古川屋へお鳥居、ある老字焼酎手配(180)7.買ひて
中村史子、渡井孝、中村史子、丹羽史子、14.00 池田へ147 解散。山下治雄へ電話し老字在。
15.00 入会義孝氏へ手配白7.受取。20.00 十輝和子へ電話。28日17.30 池田117 20 集合せし見玉見

29日 6.00起床, 6.30离家去, 鹤塘57 km 12 km 11/10 8.13 1277 在归山, 同行P亮告, 守下:
吉田, 横垣, 岳冲, 5氏, 成福院, 12 昼食, 会津, 夕食, 会津, 就寝 22.00.

田中 克巳著 「李太白」 定價一〇〇円
 杜南とならぶ唐代の大詩人李太白の詩藝を中心として、その生涯を語り、その業績を忠実に伝えている。ことに詩の技藝は精妙である。
 カロッサ作 手塚富雄訳 「美しき恋の年」 定價一二〇円
 ドイツの文豪の青春行路においての錯迷の姿を、純粹なからちでかき出している。カロッサの魂の發展史である。
 T.S.エリオット著 中橋一夫訳 「西歐社会の理念」 定價一二〇円
 現代イギリスの批評家としての第一人者が、西歐文明の伝統の論理的必然の發展として、その理想とするキリスト教社会の理念を説いている。
 邦枝 完二著 「瓦斯燈時代」 定價一〇〇円
 あんどんからランプ、ランプからガス灯にうつろうとした明治時代の東京生活のあれこれをかいてゐる。風物詩としてのしく、また資料としてもよい。
 兎島 喜久雄著 「美術」 定價一三〇円
 「美術概論」「鑑識眼」「天平彫刻と様式問題」等の項目、美術入門としての理論的研究を述べてゐる。美術の内奥をさぐるものとするものにとつてのよき参考書である。
 角川書店

7月30日 会議。

31日 朝から会議。夜は電上、校外講義、推薦入試、研究科設置など。奥の院へ行く。夕方、帰って古本屋で「田園の方言(160)」を2冊。中野英史・蒲池2氏の書、院長と著(6月1日発行)16.00出版、+2.00 19.00前著。平野屋2冊、8月2日東京南のつとまを帰る。平日は、書籍運送の2冊。元々社で14冊返す。西保嬢の7月の便。鎌倉子で9月まで来る。石正智先生が一度来る。森井幸次郎、金井節子(L2)木村陽子(食1)木村千子(L2)山登志(食1)細野智子(L2)花井彩(麻生好太)の書を見舞。斎藤望平と見舞同。加友は、森井幸次郎の2冊。堀端の去り。杉山孝都氏より2冊返す。森井下より一度来る。溝端富子(中西)より書を見舞。宮正都氏より「藤田博士の水増し」の2冊返す。

8月10(日) 昼寝。前子(食1)下村氏(金)著「己無きもの」16.30入浴。ハムを焼く。富永館長胆石病。麻生嬢の活衣に赤い帯を巻く。丹波市・稲漢出迎。19.00歌を「送」る。

2日 家居。草刈を午前と午後にする。久万哲男・南都堂の区社へ行く。書「原稿、詩、小説」に「天野出待書評」を書く。上平子より「市役所協会」の無給で働く。石清子より中元送る。天満・教員2年輩生、大塚、中井(L2)、津熊子(1回生)と書を見舞。清水より8月7日12.42三島行へて岐阜市に寄す45分へ行くと。参加の返事。岩崎は江口・伊藤聖祐2人へ案内する。石清へ「狐の詩情」斎藤望平先生へ「書」を。木内家へ電話し、明日10.00前へ行く。11.00 salary 届き、池元、世に4.000円渡す。

3日 晴。暑し。8.00前出て院長宅。李太白「E」を1冊と12.10.00木内家へをドイツ語。月謝を。梅田万字屋にて「世に」南村+2冊(100)市村(在譯文要(100))「山の手子」2冊7P80。横山防由の欠勤。我「nice-curry」coffee, かい juice & coffee。石井と+2冊11.00平家の語の「後援の序」(100)「世に」風上(20)「自然科學」(60)「詩・書」(40)「書」2冊 10.00帰る。松下名子と書を見舞。

8月4日 家居。父の電話。7月分支払の請求書を送る。⑤ 山本敬子、高子峰珠、山本陽子より暑中見舞。中井英子・洲中子。藤井幸子(L1)徳色氏。安部昭子より。林佑治・亀井昇より。4冊義雄の雑誌。27日13日学校へ訪ねる。山前実治君より入札の2冊を催促。

5日 会社へを立替の清算し、7.8両の旅行届す。受取の挨拶。指事子(服1)藤原和代、木田昭子、渋谷崎の書を見舞。岡崎修子(服1)飯沼治郎と見舞同。出雲子より。藤原幸子より。神崎院長と見舞。宇部室清吉氏より。夕方 長山と藤原淑代1.500 佐野子より。10.00 2冊返す。現代作家人名鑑(70)7。坪井中子・藤井幸子より2.000 返す。2冊返す。

6日 9.00 家へ出。木内家へを。3.000 返す(森井君へ電話す+12/3.00 返す)。南佳吉 apart へを(金。佳吉は役所へ寄)座落する中、後院へ金。我を利はす。各君より「世に」我の2冊へ来る。8月31日10.00 森井君より typist の「書」4冊と2.000 返す。出雲子より吉田君と話し、昼食。西影より4冊。8月2日 松平一貴へ。藤原嬢の「書」(宮野と2冊)。2冊返す。図書館前へ8冊。山本事務所の4冊。無人。11.00 清水子君より電話。各君より。人へ。行くと。西園昭子より返す。宮野子より。山本幸子・伊藤久子(2冊)西川氏(3冊)伝田(L2)吉田子(食1)増井園子(?)より書を見舞。伊藤夫人より。車井夫人より。増田君より。11.00 森井の性へ。山前君より「書」+2冊返す。鳴田助月書に返す。

7日 10.00 出て横山。木内君より「世に」不在。狐の詩情 2冊返す。待てば 清水・谷川・西園・藤井・柏原と5人より。西宮君より7人12.42三島宛の4冊(平岡)来る。京都・藤原病院の沢田先生より。16.30 返す。岩崎・保田夫妻より2冊返す。花井智己より。後援の「書」を。

9日 7.00起床、石川縣の団体にて忙しさをせしめて朝飯。去んとすれば、葛定河村迄は行かぬ。
200歩位にわかれ、芝生への電信柱が、9.00過ぎに中村竹次郎へ寄り足も不在。岸田夏子、森田外力
論「電」のbusが7.30分頃まで準備中、立上り、おと下車し、白山邸の電
話すれば、大掃除の会社。吉野書房のたき高島と話し、白山の電話すれば、近へ車道。去て表
の街へ、祇園池田家のたき豚の食卓にさし入る。依田君の電話すれば、柳井三千代がたき交際
と話し、山前君の電話番号を、河原田四條大に送られてお水。お水に机の詩歌(120)「情前
雑誌(50)」電したとき、山前君の会へは、荒木新夫君の夏結と、またお水に同人誌を結着。羽田
の電話し、15.00羽田の会館前に会ふこととし、墨文電の等して、9.30時頃、羽田の会にて和岡

振替東京
165768

先生、防衛庁、平凡社に行方(羽田も平凡社に詰りぬ)。夫人と坊や車の中をこの風景、
 品々を帰宅。当分の内井と津又定吉氏来つたが、久保田節子不同。井上誠子の手
 紙。藪芳彦の書状之舞。大岡か子、津沢か子、櫻井節子(まだ安静令せられぬ)。上
 岡か子、世英子、古谷悦子、市村俊雄子、岡幸代、菊菱、成尾松子、千端和子、浅野
 通子(姐)にこの文藝の年輩を、在校生のなか。井上か子(食)の令。お春は此君の
 かつ。花井裕子同。久保君、熊工の足と来つた中三令を、おと例の退校せしむ。
 (大岡、成城の経営、栗井とせしむとてかへ移転しむ)。小群和子の「Peace」鑑。(11月
 都府前山下幸成君の令、長尾君とせし立命館にむ)。

8月10日 世話をやる。芝の乳母の如く。9月に行々有線で伊井降下。上竹線に筒井嬢の会。
salary もらひ。教授会に録かれ。玉葉⁷ 3冊(國書室の借り出す(常盤山書院で文字新
編⁷ 冊と「新編語彙(100)⁷)」と苦書秋9月号と言語新書 豊臣秀吉⁷ の如くで置く。梅江
先生より水の清氏の「和歌山外村物方言集⁷」の如く。西山夫人の置やせしお中元と玉葉⁷
を置く。安村妹と出でた。不二屋で喫茶。近鉄奥内所の山崎山崎と云ふおいらし。席
花会事務所⁷ にか上平先生会の coffee お。安村と別れて梅田。宝塚にかきて新に帰る。
2. 山崎と藤原と来りし。藤原より。西山幸子。斎藤加寿美⁷ の人。甘お森地子⁷ といふ
り教育者として有名らしいと云ふはれとして前より来りし。おいらしと運手新し。

1/10 是し。家内。退社退寮の鳴用膳控抄の事、2840の受取れた。青豆智子生り角砂糖、
岩崎時子生り仙童。芳野清、菊地淑、西住あゆ子、山城和子、塚本まき、青豆智子、幸田祐子
より智子尺舞。蒲池氏よりはじめて便り。雅友18^丁。田中文子生(し五部)より十和肉油へた^七。
島居君より智子尺舞。

12日 暑し。鳴田温泉にゆく。上野伊豆、徳永(野梨山)山王、清水山王、高野山王より入る。野中荻葉
店より歌集5冊。15と16枚より手書。

13日 暑し。低気圧主となり今山、大池へ方々之ん中。19.30帰る。此村より、胃症療へては

23日 七平井に電話、松林大蔵と云ふ。父に電話、来日。9.30出て本向家。早妻中井の紹介。早妻まで来て、土蔵屋でまわし。十分のち、店に中井柳田神五郎に電話(250)「信州」P通筆(200)「樺垣」ま言草(60)「露伴」山本元(50)。おまへで満橋、今津比面、会社へかか。27日7月27日の筆費也。お浦氏庶務課長。庫平叔父事務課長と。⑦ 詩集1冊。

9月9日 8.30登校。2時向川宮口の方へ来り、いさ～話す。我々同年と。西村先生が、この身体が
上手な来りしやと演劇部の方へ話を。歸村翔子。こわいの来り。山形信江生に沢田博士へ
の手紙を。院長、古田秘書の紹介で。理事長夫人の肝煎で。義助会に来る理由。住宅
への山を君の紹介にて年主任奥野先生と話えく。学院少しから理由。出て女内家。車道より全
曜に。帰村(散髪を夕方に鉄いじ)光岡の父主として。起敷・山のむ。夜も了年の漢
文試験會。出席す。すかて年。4番の谷山生嶺卓の字を呈する。よくとれり。いかに上り給て増殖せし
神戸女子学院へ入せし女津代子。12團氏に電話あり。仰屈しきつゝある故。正體を述べ。本校へ早
く来りし旨の返書。来る日を取(やしなふかし)と。今後依舊う姓に代りて仕。

試験すしと。和・太田西夫人へ「骨」つた。

土曜 13.30 天王寺公園前にて集合せし定む。帰電于此。渡田金澄より、松井和仁子と一、其
故に幸甚と。内川より「和詩集」の再刊催促。

9月17日 9.30 家を出、英之柁旧滑りこきなく。院長へ会ひ、住吉、三寺、阿倍路、死産症4名接の報告す。午後すまじ(西村もつ)が来ては日を生り便り交わす。15.00 出て戻生いふかへすれは、両宿へ出、地畠へて道へ出、足知ろめ女人へて中へしかり、やつとせ付けて母君と会ひ、人恋りてなれば、それへもたれ。中へしかりて北島、市岡家へおき直して三時を1時向うと教へておき、雨かぬ。徳庵へておき降へてせし、徳郎在堂へて電話す、細下井在ひて待つ、修治へておきまじ中へて帰る、鳥居、泣き子へ明日の毛馬行へてせしを電話す。園へて山田人事許るへ会ひし、新田政務次官へておきす。明年、大町へおき、麓へて連絡せよ。堀内章枝へておき、見へてゐる。至誠研究13937。台風14号明日来ると。(15.25まで再試験へておきす)。

18日 朝5時、幼稚園の先生と体操。寿一より年数と「ことなま」、吉井千秋の pen-name を用ふ。午に
三原孝太郎の電話。寧生の安全へ気をつけたいと也。たいし台風は東海に元かな。夜岳山まで、26日
の自治会役員会に出ると、準備へかかっているとわす。

19日 園口。九二層八号館に赴き、角川より昭和詩集の夏館を返す。家に在り、吉島屋に与謝野
晶子展を見し。大に面白し。天牛商店で周作人「結縁豆」(10)を買ひ、野崎信の面白し
のす(斎藤茂吉「柿土人」5冊学校へ注文)上へ去り、鮮記「小休詩集」(60)を買ひて浪
速荘。石山、藤井、八田、壺井、坪井、同和、吉永と話し、横塚松浦校舎に坪井の紹介行く。
明日午前中在りし。赤坂の事。水戸寄る車端。17.の早去せに入れば後路田車更替あり
水戸の自動車と通駈なり。母君の会に在りし。明日午に三軒へかきあはせし。去り
浪中の西田とよみ来り挨拶す。昭和13年11年生とし我の3月教へりしなり。幸甚と嘆
す。去り近鉄にて大阪。松本へかきあはせ、西村宮口の2号から後者のにて落ちし。
宮口の面接の結果は明日夕刻わかると。去り中西へ行く。4月10日より出勤の予定に。浪中
の章、青木正見3冊と近江幸良郎の漢文字を学校へ注文し、我も2冊借す。

9月20日 9.30 出て岡町の橋塚吉枝、松浦定雄に会ふ。試験無試験は去り影響を以て。去て駅
前の古本屋に赴く。ハッポウ族定書(40)を買ふ。梅田町の府庁、後藤田實子氏の会々希望パートに在り。
しるへく運動せん。この南武草へかきし。長江川西両氏か吾手と。タコ30ヶ量と。coffee
ホエラ。荒井の室へかき。丹波、天岸にも会ふ。去て市電(市電)11月で下り。佐野に会ふ。Indonesia人
を以て。白井に電話しカを毛布1枚もらふ。2,000のものを以て。さう下りて伊藤あへかき伊藤徳
に以て。奥村嬢の夫森田氏に紹介す。鳥田嬢、始めは怪し。森の室へ電話で去り帰
宅。

2日 悠紀子とあしと弁当で吉澤チヨウに会って桃香の父とて通産省日用品検査所に行くと、女子
はこれには「前日福太郎氏名古屋へ7月転任と。(金中名古屋にて伊在静江、春のこえ王(30)と
付く)。あしと桃香、近鉄departにて青春の~~恋物語~~^{曲集}を聴き、学校へ行って空に
身体検査がなされ、梅田氏和歌山の就職'控'に合入してある。池内よりアといふところまで
おどろく。12.00おむ松井嬢車 9月15日にやると、渡辺嬢車、総合事務局にて会う。平
野行のつらさ、2人とも菓子も来る。授業20分お説教し、お茶先生の前で待たせられて
し、2人と15.00出て近鉄departで喫茶。16.00おむ鶴橋駅かちて17.00五反田着。駅の案内所
へ来り、郡山の詰所にたどり南海沿いに、poolの店番君へお茶をすすめて、後から来た大隈工通
みと、乙角poolの中へ偶然浦畑友子の会入。节津沿いの20.00に3人で出た。お茶冊子
へて八木嬢指ハ、お群君友人と十條の15.00でお家裏に上り、3巻と4.5巻2冊と、夕食
くばれてくれしやう。幸白礼にお茶して19.30出、节津沿いの中へ、青木浦畑嬢とて話し、20.25
のついで帰宅22.00控へ。(1件お茶して臨外(回配り受取)。

22日 巻校、11.20 五女は可はてしなく今春腰に事あり、院名の紹介受けたし、講演「比較文化」を聴
し吾峠の一角の寺の秀才と話を語り、すてきな昼食をとり、佐田、小林秀雄の現代の評論家
とよく、五女山天台院の住持と話をし面白かった。13.30 本村静子さんとよく話した。修学旅行参
加者22名の故に横山氏と相談、14日 皇国書林社長の電話でいろいろあり、25日 五女山に参詣

10月12日 登校11.00 (八ヶ途中で月をこえしなが起きられず) 苛しい会合にして力身
12月素段の時、象内が来て借った。骨、7とまゝ服節の子に抱す。15.30まで夜泊、歩
きで44. 腸捻転し。赤い7の10月おす、むかしこ也。帰途再び、藤山匠造と訪ね、
doctorの角居のときせ、心配らす。台湾風物7載。書

13日 登校10.00、橋本妃エクレオハット、清水を郵送治君に送り。 (ハニ雲井君の書翰不発行と責むるハカキ出せし)。寺内先生、足田先生、肉合にいつて去る。明日13.00先方来る由。本村静子氏の電話待ち。明日17.00上谷にて結合、今春聯名で訪ぬるに約す。芥川氏に会いし区中、毎日来る由と云はれし。出でたての「赤い」1冊買ひ。荻井孝、数田孝吉の書はせ。山下幸徳氏へお銀1.000を送る。縁後、以後此世治せむ。清水、田中2先生から数田に紹介し。田中先生は、お銀にて八度へ行く。同車にて、佐田夫人の姉、柏玉嬢に会ふ。八層病院のすぐ附添に之はありと1週間下退院と云ふ。出で敷く途、岡下和子に会ふ。2人の佳話と、懐せしむ。平岡英茂先生の手紙、元日記より、更替用紙送る。 (ハニ荻井孝へお銀を荻井孝吉野分枝に相野訪にしと体1月)

14日 学校、音楽の先生に「祖国」を聴かせた。これは「祖国」の曲で、
club 11月14日と。12月14日は、竹中御呼びの会が、
と、名刺地を、上野十三郎氏の「伊予静寂の雪」毎文芸堂へ補正。付同生つて紙張
長に違ふため中山八郎氏と通じて来る。これより帰校（ラズ委員の来園本全16旅
行のとき）。しほりく話せる、おまき御話へつかえ極楽の寺へ答へる。明音居ても
これよ、却ると美人といふ。この新世界まで、文華堂でし、蓮花化け(80)で、
taxiにて、不二屋で rice-curry をいって地下鉄に乗内し、
造血の器を作つて、おまき思ひの「学生生活」を出して、
近鉄乗内所へ、お村静子の電話を待つて、お鉄 depart の cheese をいって、
山下下車、天台院へおまき。今春暇をきくと、おまきいふ。おまき早、おまき、おまき、
と、おまき出て、おまきいふ。元々社へ、おまきいふ。おまきいふ。

4. 同4. 和子 电话 57. 来 团 日 署 以 毛 来 32 (布 施 2234-7).

10月15日 出勤。NHKサテライト中々塔上と。漢文「李太白」の行ふ。長江の河、1,500費取。西宮君の竹
中節へ奉固来儀依頼のたにせらる。文2冊/油旅行する。城山亭に春と。西侯嬢の「魔女」の
下巻の9年紙あつかす。~~漢文~~内淳一郎君奉固上京と。すて帰州へ本嬢よりハカキ。東方学79。
16日 9.30出てまっせしつへきて「李太白」2冊置。京都線に上ル(事務室にて45名(安夫人の5
人+花笛と)。府体育館のVolley Ball。好大に会の中。1回戦'存在女子大とやう2-1で勝す。15.30
まで待つ間、小野和子に会う。吉倉屋へ行く「畢賦」(30)置く。2回戦'首都好大に零敗。すぐ帰宅。17日前
田正男夫人に礼状。隆一氏も上京と。今川歌所に礼状。山下幸男に礼状。八木嬢のList。宮口先
生君と14.00ごろまで bicuits - 饅頭をれしと。

17日(日) 雨。終日家居。足田純子君と保井俊子君の俳句の会が337人と運了。忙しなり。加藤繁先生にレター会に11月5日と。欠席と通知す。

18日 晴。14.00 中々と学校へ電話すれば、三井君の石炭夫人亡くされたこと。大隈、田嶋の事。自筆4冊(40)と厚紙文を入内(50)宛て。借りの家まで送し、学校へ行く途中、院長に会い、修学旅行のことについて話し。西山夫人来りし。Tourist bureau へおとし class 委員にモリス向に合点すと、車園の世に就か。15.00 釜井君が石炭夫人の訃報に来り。去る全日の中を教員500名(西條嬢は憲女(30)届き、金不足のため)。磯原子道と柴主と石炭邸の中へ取込み中と云ふ。香煙(1000)置きて去。帰りに三井君と話す。不平あり。夜半前西山夫人に電話すれば子供要領。細井と一年生(富士仲鋼勤部)休否を申出。今一人一部に代わればやむことになり。19日 学校へ塩見君の礼状。佐藤君より寄書。宮城生小川孝也。家へは大鹿卓夫の「芸師」に郵之介編10~15枚月来と云ふ。塾中君の読書(ウイカーネン)。

19日 登校。宮口と同車。風邪に苦し、女大に去(かみかみで李太白6冊を渡し)山槐に去(院長と話。久美子の聴講生にしよう)。李太白と葛馬氏の書は旧版置いと。宮校の口氏に石流家へ誘はれし風邪中主で断り、名刺出す。帰って久美子に電話す。岩崎の所より預金

3/10 (日) 正在父子电话, 叶叶(27)此院长, 与东. 高园子见叶叶教子. 2部半堂生, 56(金)
(7.30) 泊速在口会合. 车至前在会合梁后以掩护状. 在蘇東城⁷家, 结束. 8.0 校.

佐々木さ

寺の



五
ハ
カ
ノ
一
ト
の
建
機
台
賣
品